# 桜が丘



## 6月30日野球部全校応援の様子

## PTA会長挨拶



ＰＴＡ会長
西　川　勝　美

日頃よりＰＴＡ活動に対しまして、深いご理解とご協力を頂いておりますことに、心から感謝申し上げます。

四月の入学式から早いもので半年が過ぎました。一年生は初めての高校生活で、新しい友達作り、勉強や部活動も初めてで緊張のスタートになったと思います。宿泊研修やクラスで協力し合って作り上げた砂高祭などを経験し砂川高校に慣れてきた頃だと思います。

二年生は一年間の高校生活を経験し後輩を迎え入れ高校生活が始まりました。二度目の砂高祭では一体感が生まれ、より良いものに仕上がったと思います。

三年生は最後の高校生活。進学、就職とそれぞれの進路を決める大事な一年です。部活動では最後まで後輩を引っ張り、自ら限界に挑戦し、大会に臨むことが出来たと思います。

砂高祭では最高年次らしく伸び伸びと楽しく団結力があり後輩たちを引っ張っている姿は素敵でした。

さて保護者の皆様、子供達の学校生活に参加できるのは、高校の三年間が最後です。是非とも、少しでも多く学校に足を運んでいただき学校生活を楽しんでいる姿を目に焼き付けてはいかがでしょうか。

本年度もＰＴＡ活動を通じて保護者の皆様、教職員の皆様、地域の皆様と連携して活動を行って参りますので引き続きＰＴＡ活動にご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## 成功したわけを思考する子に…



校　長
大　山　　勉

前期の教育活動を無事終えました。日頃の皆様のご支援・ご協力に深く感謝いたします。

さて、四月のＰＴＡ総会ではメンタリストＤＡＩＧＯの講演会での話をしました。彼の「夢を叶える心理学」は、「勝った」「上手くいった」時になぜの光景を思い出すより、頑張れたのか？を考えさせることが大切。でなければ次の頑張りに生かせない。結果よりも努力の過程に目を向けること。「できた。良かった。」で終らせてはだめです。なれど、勝てたか。良い成績をとれたか。合格できたか。を具体的にどのように頑張ったのか。を知ることが大切。わが子を頭のよい子に育てたいと思うならば、結果を喜び、褒美をあげることで終らせずに、必ず具体的に努力（行動）した中身をほめてあげることです。と紹介しました。

今夏の甲子園開会式で滝川西高校堀田主将の選手宣誓の中に純朴に成長している高校生の姿がありました。「私たちは今、この甲子園球場に立てていることを誇りに思いています。ここにたどり着くまでには、たくさんの厳しい試練や困難がありました。それを乗り越えられたのは、仲間、家族、監督そして応援してくださる多くの方々の支えがあったからです。幼い頃から、真っ白なユニフォームが真っ黒になるまで練習し、真っ白なボールを真っ黒にするまで追いかけてきた。…」親や教師らの感涙が目に浮かびます。

家庭と学校がそれぞれの役割を担い、子どもたちの成長を温かく見守り、良き支援ができるよう、日々の連携を密にしてまいりたいと思います。後期もどうぞよろしくお願いいたします。

発　行　者
砂川市吉野2条南4丁目
北海道砂川高等学校
「保護者と教職員の会」
TEL(0125)52-3168
FAX(0125)52-3169